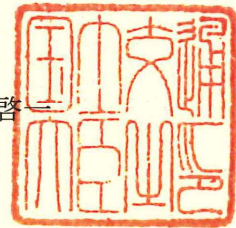


認 定 書

国住指第 1399 号
令和元年 9 月 9 日

株式会社クボタケミックス
代表取締役社長 土 和広 様

国土交通大臣 石井 啓一



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060FL-1066
2. 認定をした構造方法等の名称
被覆材付給水管・排水管／セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

被覆材付給水管・排水管／セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開口部	形状	円形(φ 209mm 以下)
	面積	0.0343m ² 以下
占積率 (開口面積に対する配管の断面積の総合計の割合)		62.4% (直管) 以下 71.8% (管継手) 以下
貫通する床の構造等		ALCパネル又は鉄筋コンクリート造 厚さ 100mm以上

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表2に、配管の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項 目		仕 様	
被 覆 材		材料	ポリ塩化ビニル樹脂シート／グラスウール保温材
		寸法	厚さ 25mm 以上
		使用箇所	直管(立管)及び管継手：あり 直管(横枝管)：あり又はなし
	表面材	材料	仕様：あり又はなし ポリ塩化ビニル樹脂シート
		厚さ	1.8mm 以下
		面密度	5.8kg/m ² 以下
	基材	材料	グラスウール保温材 (JIS A 9504)
		厚さ	25mm 以上
		密度	24kg/m ³ 以上
	充てん材	材料	セメントモルタル
		組成 (質量%)	普通ポルトランドセメント 25 砂 75
		使用箇所 (使用量)	床と配管(立て管)の隙間 (床厚方向100mm以上密に充てん)

表3 配管の仕様

項 目		仕 様	
配 管	管継手	材料	仕様：あり又はなし 混入硬質ポリ塩化ビニル管継手 (ただし、受口外径及び厚さは JIS K 6739)
		組成 (質量%)	
		寸法	受口外径 177.1mm 以下、厚さ 5.6mm 以下
	直管 (立管・横枝管)	材料	黒鉛混入硬質ポリ塩化ビニル管 (ただし、外径及び厚さは JIS K 6741 に規定する寸法) (国土交通大臣認定：PS060FL-0897)
		組成 (質量%)	
		寸法	外径 φ165mm 以下、厚さ 9.6mm 以下

4. 副構成材料の仕様：

副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

項 目		仕 様	
接着剤	材料	塩化ビニル・酢酸ビニル共重合樹脂系	
	塗布量	30g 以下/1 箇所あたり	
	使用箇所	直管と管継手の接続部	
鉄線	材料	1) 又は 2) 1) 鉄線(めっき処理品含む) 2) きつ甲金網(JIS G 3554) 種類：a) 又は b) a) 亜鉛めっき鉄線製きつ甲金網 b) ステンレス鋼線製きつ甲金網	
	寸法	線径 0.4mm 以上	
	使用箇所	被覆材の固定に使用	

5. 構造説明図：
構造説明図を図 1 及び図 2 に示す。

単位 mm

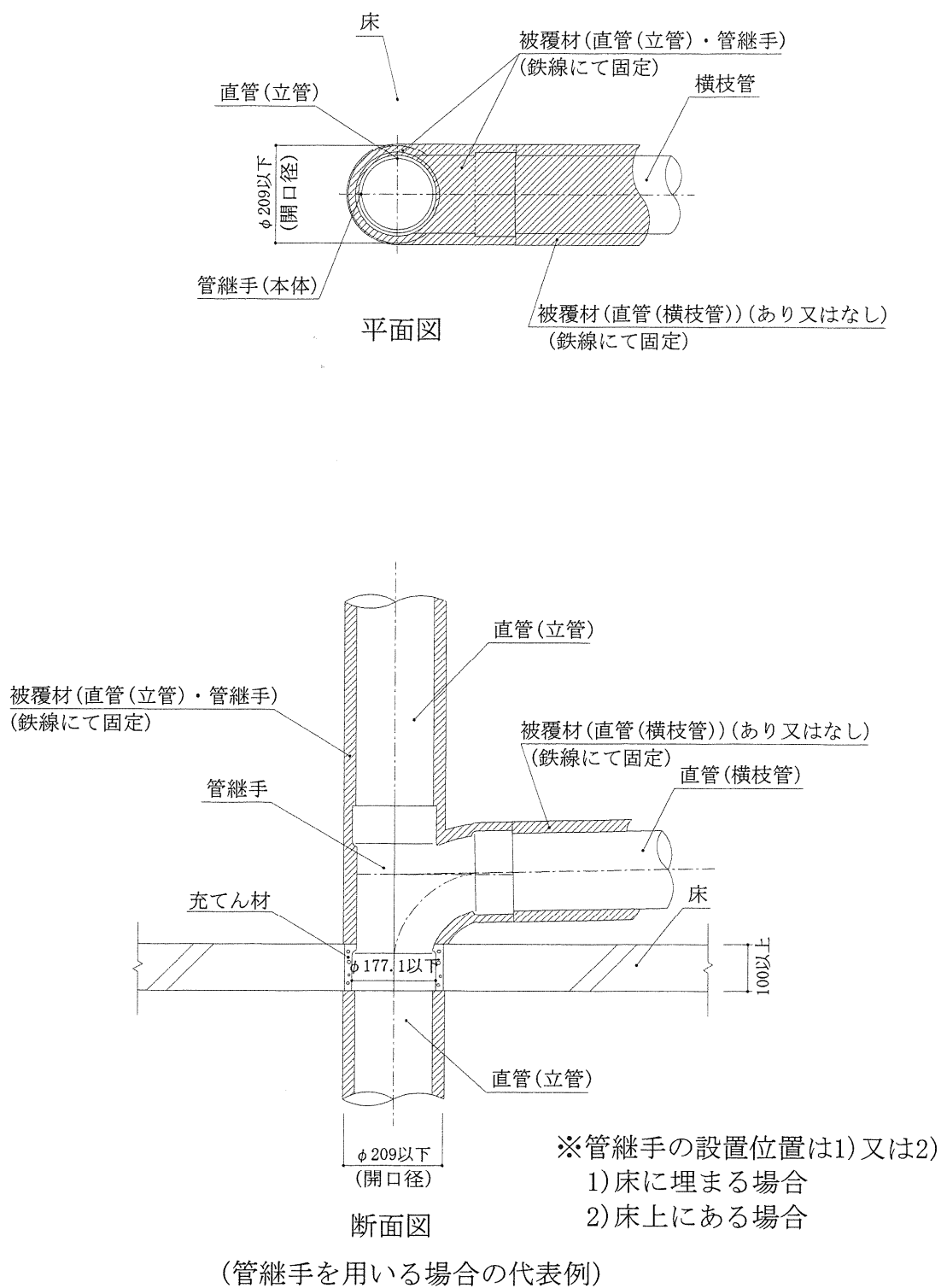
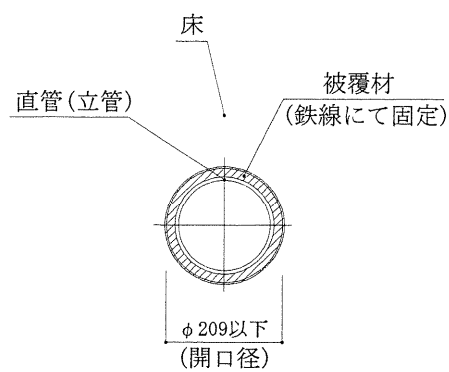
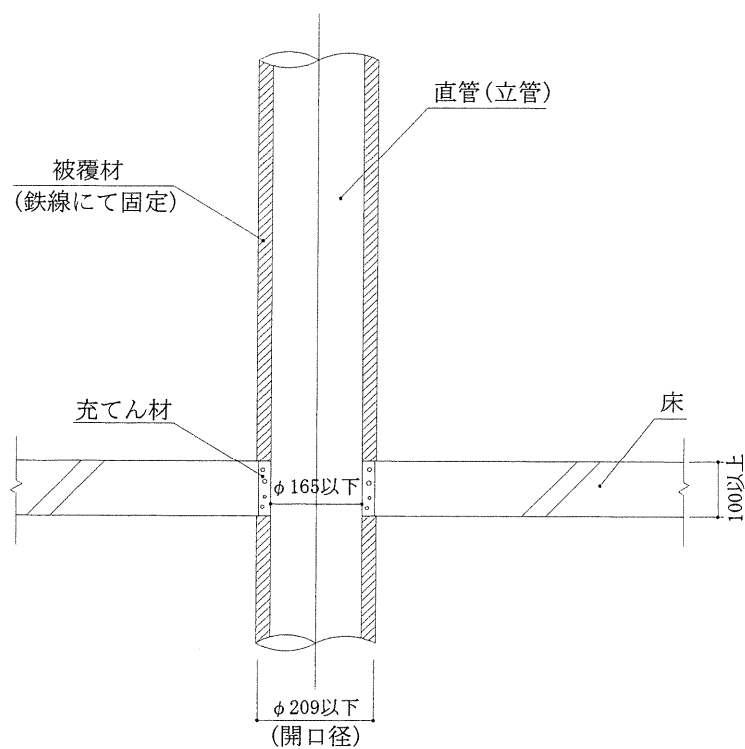


図 1 構造説明図(施工図)

単位 mm



平面図



断面図

(管継手を用いない場合)

図2 構造説明図(施工図)

6. 施工方法：

施工は、以下の手順で行う。

(1) 直管のみの場合

1) 開口部の確認

開口部の開口面積、占積率、床の仕様、床の厚さ等が仕様に適していることを確認する。

2) 配管の設置

直管を所定の位置になるように設置する。

3) 開口部の埋め戻し

開口部と配管の隙間に、充てん材(セメントモルタル)を密に充てんする。

なお、開口部の下部に板等を用いて仮押さえし、セメントモルタルを充てんする場合、セメントモルタル硬化後、板等を取り除き隙間のないことを確認する。

4) 配管(直管(立管))への被覆材の取り付け

配管(直管(立管))の上下に、被覆材を巻き付ける。なお、必要に応じ鉄線にて、被覆材の固定を行う。

(2) 直管+管継手の場合(管継手が床に埋まっている仕様又は管継手が床の上にある仕様)

1) 開口部の確認

開口部の開口面積、占積率、床の仕様、床の厚さ等が仕様に適していることを確認する。

2) 配管の設置

直管及び管継手を所定の位置になるように設置する。

管と管継手は接着剤で接合する。

3) 開口部の埋め戻し

開口部と配管の隙間に、充てん材(セメントモルタル)を密に充てんする。

なお、開口部の下部に板等を用いて仮押さえし、セメントモルタルを充てんする場合、セメントモルタル硬化後、板等を取り除き隙間のないことを確認する。

4) 配管(直管(立管)・管継手)への被覆材の取り付け

配管(直管(立管)・管継手)の上下に、被覆材を巻き付ける。また、配管(直管(横枝管))に用いる被覆材は必要に応じて巻き付ける。なお、必要に応じ鉄線にて、被覆材の固定を行う。